

## 9. 高齢者と協働・共生する商店街づくり事業

☞ 地元食材を活用した新商品開発による商店街の賑わいづくり

【地域商業活性化総合対策事業コンソーシアム（帯広市）】

### 地域の状況

#### ■ 地域の概要

事業の実施場所である電信通り商店街は、帯広市北東部に位置し、約450mの商店街は通勤・通学の際の生活道路として利用されています。明治16年に初めて帯広に開拓史が入植した帯広発祥の地としての顔を持つ、帯広で最も歴史が古い地域で、帯広駅が西2条にできるまでは帯広の中心でした。

商店街の加盟店は39店舗で、組合員同士が一致団結して事業に取り組んでいます。

#### ■ これまでの問題点

電信通り周辺地区は人口減少が止まらず、市内で最も高齢化比率の高い地区となっており、少子高齢化が進む中で商店街の活性化を図るため、「高齢者や障害のある方と協働・共生する商店街づくり」をコンセプトに地域に根ざした活動を続けています。

#### ■ これまでの取組

昭和48年以降、毎年夏祭り・盆踊り大会を開催しているほか、平成元年には街路整備事業として、商店街の広告塔（商店街シンボルトワー）の設置や街路灯の整備、平成12年には電信通り花と緑の推進委員会による「花ば咲かせ隊 緑化美化活動」を実施し、潤いのある街づくりを目的とした活動を実施しました。

また、環境に配慮した商店街づくりを進めており、平成21年には、街路灯器具を改造し、水銀・ナトリウム灯からLED灯に転換し、CO<sub>2</sub>排出量を約86.2%削減するとともに、電気代も年間60万円程度が削減されたため、事業費に余裕ができ、他の事業に取り組むことが可能となりました。

平成22年度からは、商店街のアンテナショップ、日替わりランチや通年で地元野菜を乾燥し提供するコミュニティショップ、障がい者雇用も兼ねたスイーツ製造販売一体型店

舗など空き店舗を活用した事業により、徒歩での来街者が増えつつあります。

平成23年度からは、地域商店街活性化法に基づく事業に取り組むとともに、中心市街地活性化事業に共感した有志数名により、まちづくり会社を設立し、駐車場や店舗賃貸などの事業を展開しております。



### 事業内容

#### ■ 本事業での取組

平成22年度に実施した住民アンケートでは、「ファーストフード」「地元ならではの飲食店」「商店街発の独自商品の開発・販売」といったニーズが多かったことから、特色あるファーストフード店の展開で商店街の顧客誘致と活性化につなげていくこととしました。

また、今回の事業においても、障がい者の雇用に結びつく取組としています。

- ファーストフード店出店に関する意識調査を実施し、既存店ではない特色ある店の展開を方向付け
- 高齢者雇用意識調査を実施し、働きたいという意識の高さを確認
- 「おやき風」、「お好み焼き風」と試食会を重ね、「ミートパイ」をモデルとした「包み焼き」のテイクアウトに決定  
※十勝の食材を包んだミートパイ「てのひら焼き」の販売
- 実施計画を策定し、店舗の改修、店舗運

営方法等をコンソーシアム内で検討

○ 25年3月プレオープン、5月グランドオープン

■ 取組の中で生じた課題

空き店舗を改修して、店舗、厨房、物品庫等を整備しましたが、改修費用が当初計画よりも増大してしまいました。

また、5月のグランドオープン直後に、火災のため店舗の一部を焼失し営業開始が当初予定に比べ遅れていました。

■ 取組に関する課題への対応

増加した事業費は、金融機関からの借り入れなどで対応しましたが、空き店舗だけではなく、商店街にある空き地への新築に対しても、国や道の支援があるとありがたいと感じました。

これまでも国や市の補助金を受けながら多くの事業に取り組んできましたが、自己資金も必要ですので、(株)でんしんを設立し、商店街で収益を上げる事業として、障がい者向け賃貸住宅や月極駐車場などの不動産賃貸に取り組んでいます。

また、営業再開に向けて新たなメニューを開発するなど準備をすすめていました。

■ 地域の関係者との連携体制（メンバー）

コンソーシアム内では、企画や運営資金の管理は商店街組合が、人員管理や運営管理はデイサービス等を行う(株)花が、人材交流サポート業務はNPO法人十勝障がい者支援センターがそれぞれ役割を担って連携しながら取り組んでいます。

■ 連携体制を構築する上で生じた課題

従前より、商店街全体が「障がい者とのつながり」を大切に、各事業を実施してきたこ

ともあり、障がい者の就労支援が大きなテーマである本事業を実施するうえで、体制構築に関し、特に問題は生じませんでした。

今後の取組

店舗の復旧工事が終了し、25年12月に営業を再開しました。

メニューについては、当初考案したものに代わる新たなメニューとして豚丼風味の「十勝のパイ」や「キーマカレーパイ」など5品を開発するなど、再スタートに当たりよりよいものを提供し、周囲にある店に負けないような店づくりを目指しています。土日には、電信通りにある人気菓子店等に札幌や釧路から多くの観光客が足を運んでおり、このような観光客を取り込めるよう今後も活動していくとともに、十勝の食材を包んだミートパイで、商店街の賑わいづくりや障がい者等の就労支援に取り組んでまいります。

今後も「お年寄り・障がいのある方と協働・共生する商店街」商店街づくりのコンセプトとして「働・食・住が揃い、地域貢献が出来る商店街」、「温もりと潤いのある、10年・20年後も夢を持てる商店街」を目標に活動を行ってまいります。



店舗内での作業の様子

地域商業活性化総合対策事業コンソーシアム

- 【構 成 員】 帯広電信通り商店街振興組合、株式会社 花、  
特定非営利活動法人 十勝障がい者支援センター
- 【所 在 地】 〒080-0804 帯広市東4条南6丁目2番地  
(帯広電信通り商店街振興組合)
- 【代表者名】 帯広電信通り商店街振興組合 理事長 長谷 渉
- 【電話番号】 TEL 0155-24-6922 FAX 0155-25-0550
- 【HP】 <http://www.denshindoori.com/>